

「介護ビジネスの未来を創る」
週刊高齢者住宅新聞
 Elderly Press Newspaper

2021年(令和3年)
12月15・22日
 第654号 (毎週水曜日発行)
 (株) 高齢者住宅新聞社
 〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15
 ☎03-3543-6852(編集部)
 発行人 網谷敏敏
 年間購読料 23,100円(送料込・税込)
 ホームページ
<http://koureisha-jutaku.com>

給食内製化で食品ロス削減

社会福祉法人正和会 環境大臣賞受賞

警備保障・介護・社会福祉事業を手掛けるアパックスグループで特別養護老人ホームを運営する社会福祉法人正和会(兵庫県川西市)は、この度、環境省が主催する「食品ロス削減環境大臣表彰・食品ロス削減の取組賞」にて環境大臣賞を受賞した。



超高速凍結機。一般的な凍結機よりも、約2倍の早さで冷凍が可能。そのため、解凍後も食材の品質を保つことができる。超高速凍結機導入に合わせた数千円円の投資は3〜4年で回収可能で、環境に配慮した経済的なグリーン投資として、着目したという。

入居者に合わせて量・メニュー調整

食事は、施設内のセントラルキッチンで一括調理・急速凍結・運搬され、各施設にて必要量を再加熱して提供する。各施設では、入居者をよく知った職員が再加熱・盛り付け・配膳・食事介助を行うため、健康状態や嗜好などに応じて量・メニューを適切に調整している。

「セントラルキッチンを導入したことで、食品ロス削減とともに業務効率化も図ることができました。年間約3000万円コスト削減できました。削減したコストをイベント食などの充実や地域食材の購入、介護の質向上のための投資に充当することができました」(古賀理事)

今後は地域の子ども食堂や在宅高齢者をはじめ、住民にも食事を提供しながら、地域貢献につなげる。



古賀大介 古賀理事

兵庫県川西市内で4棟の特養(120床)棟を運営する同法人は、設立当初より選択食や焼き立てパンを提供するなど、入居者に

喜ばれる食事提供を実施。県の監査では、他施設に比べ、残食量が少ないことを評価されるなど、従来より、食品ロス削減に高い意識を持って取り組んできた。

2019年に特養「あわらぎの里 清和台」にセントラルキッチンを導入し、入居者

に適切な量と食事を提供できるようにしたことで、さらに食品ロス削減を実現したという。

もともと委託給食会社が食事を提供していたが、近年は人材不足問題の深刻化により、給食スタッフの採用が困難な状況が続いており、委託会社の経費も高騰するようになっていた。

「このままでは、品質を保ちながら安定した食事提供ができなくなってしまうのではないかという危機感から、セントラルキッチンを導入し、給食を内製化しました」(古賀大介理事)

同法人が導入したのが、ゼロカラ(横浜市)が開発・製造した



▲超高速凍結機を導入

超高速凍結機。一般的な凍結機よりも、約2倍の早さで冷凍が可能。そのため、解凍後も食材の品質を保つことができる。超高速凍結機導入に合わせた数千円円の投資は3〜4年で回収可能で、環境に配慮した経済的なグリーン投資として、着目したという。

「デイサービス5選」一次審査 開催

一般社団法人日本デイサービス協会(東京都千代田区)は、先進的な取り組みを行う事業所を選定する「デイサービス5選」の一次審査を9日、開催した。

初開催となる今回は、「自立支援・重度化対応」「介護人材の確保・業務効率化・IoT」「地域包括ケアシステムへの推進」「感染症や災害への対応力強化」「保険外サービスを」の5つのテーマで事例を募集した。1次審査ではエントリー数191事例の中から、16事例が選ばれた。来年1月20日に16事例からこれからのデイサービス運営方法を学ぶ勉強会が開催される。また、1月25日に行われる予定の2次審査で5事例が選定され、3月にオンラインにて最終発表する。

審査員の森剛土理事長は「1次審査の総括として、「自立支援に役割とやりがいが出ている事例があり、また、地域との活動も展開されており、デイサービスの価値をさらに高められるという可能性を感じた。独自性のある取り組みを見ることで、他社でも取り入れられるようになる。どれもレベルが高く、選定するのにとても苦労した」と語る。



▲審査では16事例が選ばれた

富田林特別養護老人ホーム 富美ヶ丘荘

介護人材の不足が叫ばれ各メーカーより様々な介護ロボットが販売される中、社会福祉法人恩賜財団済生会支部大阪府済生会 富田林特別養護老人ホーム 富美ヶ丘荘では入居者の安全の担保を目指し、2020年9月にトーテックアメニティの「見守りライフ」を25台導入した。転倒転落リスクが高い入居者を対象に設置したところ、導入後は事故件数が大幅に減少しているという。



▲富田林特別養護老人ホーム 富美ヶ丘荘 外観

社会福祉法人恩賜財団 富田林特別養護老人ホーム 富美ヶ丘荘では、転倒転落事故が発生しているため、それに代わるも富美ヶ丘荘は、昭和56年の2月に開設され平成27年4月にすべて個室のユニット型施設として生まれ変わり、入居者の個性豊かな尊厳ある日常生活を支援している。より確かな安全の担保を目指し、介護ロボットの検討を含め、試行錯誤を重ねていく中出会ったのが見守りライフだった。「以前使用していたセンサーでは「起き上がり」「端座位」通知が遅く、訪室した際には既に離床されている

社会福祉法人恩賜財団 富田林特別養護老人ホーム 富美ヶ丘荘では、転倒転落事故が発生しているため、それに代わるも富美ヶ丘荘は、昭和56年の2月に開設され平成27年4月にすべて個室のユニット型施設として生まれ変わり、入居者の個性豊かな尊厳ある日常生活を支援している。より確かな安全の担保を目指し、介護ロボットの検討を含め、試行錯誤を重ねていく中出会ったのが見守りライフだった。「以前使用していたセンサーでは「起き上がり」「端座位」通知が遅く、訪室した際には既に離床されている

危険予測の強化による安全の質向上を目指して

末などの画面に、状態をシンプルにイラストで表示する。動き出しや起き上がりなど、離床前の動きが、タイムラグがほとんどなく通知されるため早期の対応が可能となり、転倒転落事故の件数が大幅に減少しているという。

また、生活リズムやバイタルデータを一目で確認できる。「夜何時ごろに寝られたのかなど、入居者様の様子や生活リズム把握の目安として活用しています。取得したデータは不眠の把握や根拠となり得るため、医療にもつながると考えています」(二宮さん)

導入から1年が経過し、カンファレンスで見守りライフの設置対象者を議論するなど、施設の機能のひとつとしてすっかり現場に馴染んでいる様子だ。

オンラインセミナー開催 『介護ロボットを上手に運用するコツとは』

開催日時：2022年1月20日(木) 10:00~12:00
 申込方法：下記URLもしくはQRコードよりお申込みください。
 申込フォーム：<https://www.totec.jp/seminarR/2022/0120.html>
 お問合せ先 **トーテックアメニティ株式会社**
 ☎052-533-6919 ✉ mlife@totec.co.jp (受付時間:9:00~17:30) ▲申込フォームQRコード



富美ヶ丘荘では危険予測の強化による安全の質向上を実感し、見守りライフのさらなる活用を検討している。

尚、メーカー曰く、現在非常に多くのお客様より問い合わせを受けており、納期時間を要する可能性がありますとのこと。詳細は左記問合せまで。